

現代社会の複雑化における人間的価値論からの土木計画

岐阜大学 正会員 ○秋山 孝正

1. はじめに

感覚的には「科学」と「宗教」は異質なものであるが、いずれも大局的には「事物に対する人間の精神活動」という意味で共通するものといえる¹⁾。なかでも「仏教」は人間を超越した絶対者（神）の啓示に基づく真理を説くもの宗教ではなく、悟りを開きブツダに成ることを目指すものである^{2)・3)}。この意味で、仏教は宗教的哲学を内包しており社会活動全般に対する思想形成に有益な智慧が求められる。

これまで佐佐木は地域計画への仏教哲学導入をはじめ陰陽学など東洋的思想全般の利用を推進し、風土工学という形で膨大な方法論を提案している^{4)・5)}。本稿では、これらの研究成果を踏まえて、近年の土木計画な課題への適用性を議論するものである。

2. 人間的価値論にもとづく計画

都市交通計画に関して、1970年代に佐佐木は「現象論的計画」と「価値論的計画論」を提案した。前者は計画目標を都市交通現象自身から抽出しようとする計画の立場であり、移動の自由を中心に自由主義を基調とする交通計画である。移動の自由は人間の基本的権利であり空間的・時間的制約の縮小が人間の幸福につながるという計画理念である。この計画的立場からはなれ、高次の計画（たとえば国の経済計画）の達成手段として交通計画をとらえるとき、社会的価値の増大をはかるための価値論的計画と呼ばれる。この場合には価値観により計画の優劣が左右されるため、住民の計画参加が必要となり、いかなる価値観により計画を立てるべきかを問われる⁶⁾。

さらに佐佐木は社会的価値を人間的価値の総和とした。人間的価値とは「各人が自由に人間らしい仕事をし、社会のために生産的にまた文化的に何らかの寄与をし、その代償として自己の欲する経済的ないしは文化的創造物、つまり社会的価値の一部を享受することによって、社会人としての存在意識

を確保することに生活を意味づけることである⁶⁾」としている。また人間的価値論に基づく計画として「所得倍増計画にかわって、労働時間短縮計画のもとに道路の整備が行われるべきではないだろうか。1日は24時間しかなく、人生70有余年にすぎないことに思いを致すべきである⁶⁾」と結ばれている。これらは今日なお範とすべき計画理念である。

3. 仏教哲学思想の導入

仏教の基本的理念としてブツダによる四諦・八正道が挙げられる。四諦は「苦集滅道」であり、人生は苦である（苦諦）の認識から、苦の生起の原因である煩悩（渴愛）に関する無明を理解し（集諦）、煩悩を滅する（滅諦）を実現する。このための方法論（道諦）は八正道の実践である^{1)・7)}。この「ブツダになるための教え」は仏教思想の特異性であり、現実的問題解決への有効性を与えるものである。

たとえば、事物をみる場合に「見、観、視、察」の四種の見方があるとされる。通常の「見」は肉眼でものをみることであるが、観自在菩薩（観世音菩薩）の「観」は心眼でものをみることである³⁾。

また「神経症治療」では仏教思想（禅の無執着）が影響を与えている場合がある（森田療法）。病を対象化し科学的に対応する近代医学の通常の方法ではなく、病と共存しつつ、人間が本来持つ生のエネルギーを活性化させ病から抜け出すものである¹⁾。

またすべての現象は「五蘊皆空」であり、土木計画プロジェクトにおいても成否を越えたところに真実がある。いかなる土木事業も時空間的に常に有効でもなく無効でもない。特定の価値観の評価は可能であるが、本来多様であり絶対的評価は不可能である。この空の理念は、事物は時間的には「万物流転」、空間的には「相対依存」であることを示している³⁾。

さらに密教における「マンダラ」の場合には、仏のシステムとして、個別の理解を超えて一体的理解

キーワード：人間的価値、精神風土、仏教、無意識、精神分析

連絡先（〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学工学部社会基盤工学科、TEL: 058-293-2443、FAX: 058-230-1528）

を前提とする点で極めて示唆に富む思考法である．すでに土木計画における問題整理，因果構造の表現，理念形成等に適用された例は多数見られる^{4)・5)}．

さらにブツダの示唆した快樂と苦行の二辺を離れた中道の教義は，事物の解釈論的にも一意的理解を超えた事物解釈の優位性を教えるものではないか．

4．東洋思想的アプローチ

現在の複雑化する社会において，還元主義的な科学信仰においては解決できない問題が多数存在する．この意味で，地域計画において東洋思想の影響を受けたユング心理学の導入を提案した佐左木の研究は先進的である⁴⁾．意識層の自我と無意識層の自己の関係から人間の意識構造を説明する．無意識に層構造があり個人的無意識，文化的無意識，普遍的無意識などを規定できる^{8)・9)}．したがって，精神風土面を見るとき地域計画とは地域コンプレックスを克服する「自己実現」の過程とみなすことができる．

このような意味から，道路建設時に実行される「環境影響アセスメント」はさらに普遍的「歴史文化アセスメント」の領域への拡張が期待される．たとえば「景観法」の施行は精神性導入の具現化である¹⁰⁾．「良好な景観は，地域の固有の特性と密接に関連するものであることにかんがみ，地域住民の意向を踏まえ，それぞれの地域の個性及び特色の伸長に資するよう，その多様な形成が図られなければならない」この「地域の固有の特性」「地域の個性及び特色」は，精神風土から導出されるものではないだろうか．

土木技術者は倫理的に「美しい国土」「豊かな社会」をつくり，改善し，維持するためにその技術を活用し，品位と名誉を重んじ，知徳をもって社会に貢献する¹¹⁾．土木技術者は，この「美しさ」を理解できるような思考法を持ち，行動していかなければならない．この「美しさ」においても，普遍的無意識のレベルで「観」ずるものであると思われる．

また周知のことであるが，仏のシステム「マンドラ」の世界観はユング心理学においても重要な視点である．この全体的世界観は，創発を前提とする「複雑系システム」の世界観と類似するものがある．

近代西洋文明は事物を対象化した上で，客観的に把握することから出発した．しかしながら，複雑化し多様な情報が輻輳する現代社会を背景とする今日

土木計画においても，物質的な外科的技術論の展開を目指すだけではなく，併せて精神医学的な方法論を希求すべきではないかと思われる¹²⁾．

5．おわりに

複雑化する現代社会において自己実現の確立は困難であり，多くの現実的問題が生じている．土木計画における精神性を検討する必要があるのではないか．訳語・用語法としての問題とも思われるが，「合意形成」「住民参画」「P I（インボルブメント）」は西洋的（父性的）思想を前提とする計画論ではないかと思われる．これらが「普遍的無意識層」（複雑系という「自己組織化」）と同様な合意を目指していることを期待したい．すなわち内発的な合意形成は「自己実現」を反映したものと思われるからである．

情報通信技術の高度化，民営化など法制度改革が進み複雑化の増大する昨今，人間価値論的な計画方法の意義を再考する必要があると思われる．

本稿では紙面の都合上多数の用語を未定義に使用した．詳細な理解を要する点は各分野の専門書籍を参照されたい．また筆者の稚拙な整理は，佐左木網先生の見識の一毫にも満たないことを付記する．

参考文献

- 1) 松長有慶：現代の宗教 仏教と科学，岩波書店，1997.
- 2) 鎌田茂雄：般若心経講話，講談社学術文庫，1986.
- 3) 高神覚昇：般若心経講義，角川文庫，1952.
- 4) 佐佐木綱編著：風土分析と地域計画，地域交通計画研究所，1985.
- 5) 佐佐木綱：陰陽学とまちづくり，土木学会論文集，No.536/-31，pp.1-8，1996.
- 6) 佐佐木綱：都市交通計画，国民科学社，1974.
- 7) 佐藤正英・片山洋之助共編著：新制チャート式シリーズ 新倫理，数研出版，1998.
- 8) 河合隼雄：コンプレックス，岩波新書，1971.
- 9) 河合隼雄：無意識の構造，中公新書，1977.
- 10) 国土交通省監修・景観法制研究会編：概説景観法，ぎょうせい，2004.
- 11) 土木教育委員会倫理教育小委員会：土木技術者の倫理 事例分析を中心として，土木学会，2003.
- 12) 秋山孝正：阪神大震災における災害心理と都市復興，土木計画学研究・講演集，No.18(2)，pp.597-600，1995.